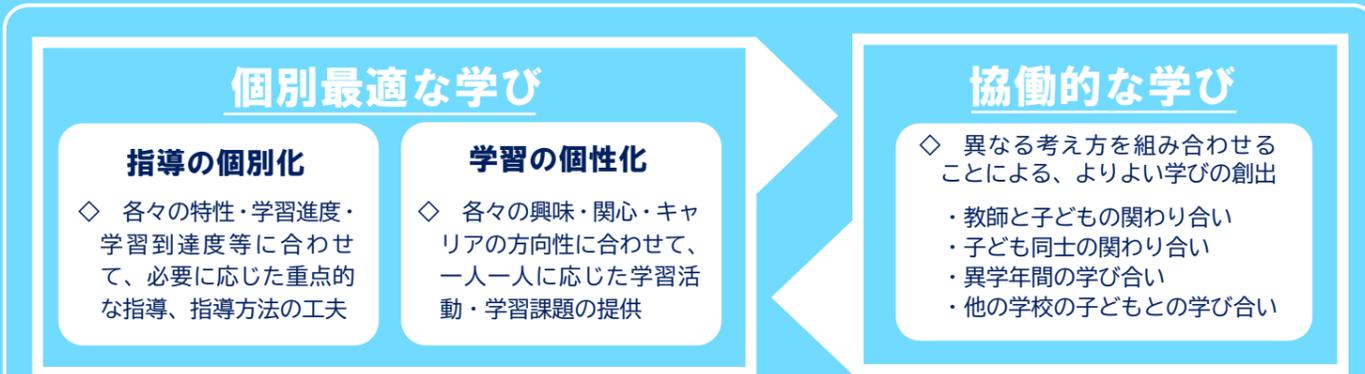


- ▶ 子ども主体の「対話的な学び」を引き出す教師の仕掛けづくり
- ▶ 子ども(学習者)の視点からつくる「深い学び」



一体的に充実させることで、授業改善につなげる

「主体的・対話的で深い学び」の実現

	『学習者』の視点	『授業者』の視点
主体的な学び	① 学ぶことに興味や関心を持つ ② 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ③ 見通しを持つ ④ 粘り強く取り組む ⑤ 自己の学習活動を振り返って次につなげる	A 既習事項を振り返る B 具体例を提示して引きつける C 子どもが明らかにしたくなるような学習課題を設定する D 子どもが自らめあてをつかむようにする E 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる F 子どもが自分の考えを持つようにする G 子どもの思考を見守る H 子どもの思考に即して授業展開を考える I 子どもの考えを生かしてまとめる J その日の学びを振り返る K 新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	⑥ 子ども同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める ⑦ 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ⑧ 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ⑨ 先哲の考え方を手掛かりに考える	L 思考を交流させる M 交流を通じて思考を広げる N 協働して問題解決する O 板書や発問で教師が子どもの学びを引き出す
深い学び	⑩ 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ⑪ 知識を相互に関連付けてより深く理解する ⑫ 情報を精査して考えを形成する ⑬ 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	P 資質・能力を焦点化する(つきたい力を明確にする) Q 単元や各授業の目標を把握する R ねらいを達成した子どもの姿を具体化する S 教材の価値を把握する T 単元及び各時間の計画を立てる U 目標の達成状況を評価する

資質・能力の育成



「対話」により生まれる深い学びの授業の創造へ

01 時代が求める「対話的な学び」～VUCAの時代を生き抜く子どもたち～

現代社会は、社会や生活の在り方に様々な変化が起こる予測困難なものとなっている。正解が一つとは限らない社会において、子どもたちが個人と社会の Well-being を実現していくためには、自らの力で豊かな人生を切り拓き、多様な他者と共に豊かな社会を創造していくことが必要となる。特に、様々な要素を含む困難な問題を抱える本県であるからこそ、多様な他者との対話や協働を重視していくことが必要になってくる。
(第7次福島県総合教育計画より)

VUCA

- V = Volatility (変動性)
- U = Uncertainty (不確実性)
- C = Complexity (複雑性)
- A = Ambiguity (曖昧性)

「対話的な学び」

子ども同士の協働、教職員や地域の人々との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び
(学習指導要領より)

02 「対話」の基本事項 ～「話し合い」＝「対話」とは限らない～

- ▶ 「対話」とは、「聴き合い」
- ▶ 「対話」とは、軸(課題)に肉付けする一連の営み
- ▶ 「対話」とは、他者と自分の考えとの擦り合わせ

03 「対話的な学び」を引き出す教師の仕掛け

魅力的な教材、課題の設定

「わからなさ」から生まれる学び

対話を活性化させる教師のファシリテーション

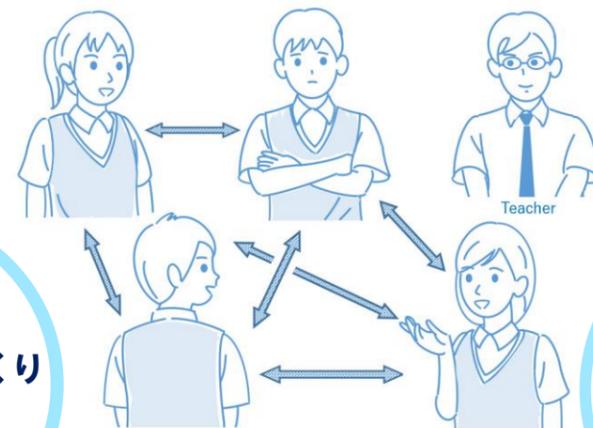
「教え屋」から「仕掛け屋」への転換

子ども理解と親和的な学級づくり

聴く力を育て
聴き合う学級へ

自身と対峙する場面の設定

自分の考えとの擦り合わせ
(自己内対話)



- 友達からの情報受信 (INPUT)
- 友達に向けての情報発信 (OUTPUT)
- 自分に向けての情報の再構成 (PROCESS)